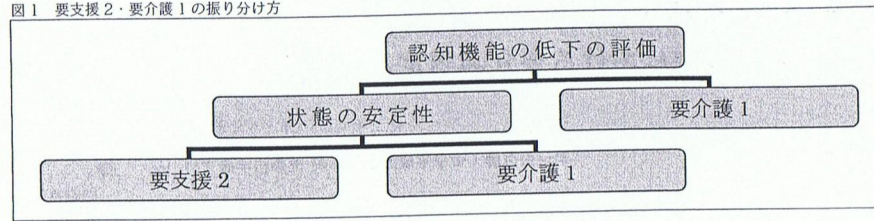


図1 要支援2・要介護1の振り分け方



び「状態の安定性」の結果に基づき、「要支援2」と「要介護1」のいずれかに振り分けられるようになった(図1)。介護認定審査会は、表示された結果と、特記事項、主治医意見書の記載を比較検討し、必要に応じて変更を行う。状態不安定の方や認知高齢者は「要介護1」として判定される。状態が安定して介護予防サービスを行うことで維持・改善可能性が高いと判断された場合、「要支援2」に振り分けられる。2007年に政府が掲げた「新健康フロンティア戦略」は、介護予防対策の一層の推進には、骨折予防及び膝痛・腰痛対策といった運動器疾患対策の推進が必要であるとの提言がなされた²⁾。それに伴い、運動器の機能向上マニュアル改訂版³⁾では、膝痛・腰痛・転倒不安といった運動器疾患対策の評価表が新たに取り入れられた。

虚弱高齢者は、身体機能レベルが低い者ほど運動器の機能向上サービスの改善効果がある⁴⁾。運動器疾患対策は、対象者を早期に発見し、早期に運動療法などを行うことで、要介護状態になることを防止できる⁵⁾。2006年の介護保険法改正では、介護予防事業の拠点として通所介護・介護予防通所介護事業所(以下、デイサービス)の一層の活用を示している。しかし、運動器疾

患対策を行っているデイサービスは比較的に少ない。運動器疾患がある対象者を適切に対応できるデイサービスが増えることで効果的な介護予防施策が可能であると考えられる。そこで、本研究はデイサービスを利用する要介護高齢者の運動器疾患を測定し、要介護認定の課題を検証した。

2. 方法

対象者は筆者の経営するデイサービス2ヵ所の認知症を有しない利用者102名とした。対象者の特性は、脳梗塞の後遺症がある方が21名、男性46名、女性56名、平均年齢79.1±7.6歳、要介護度別では、「要支援1」は36名、「要支援2」は29名、「要介護1」は15名、「要介護2」は15名、「要介護3」は7名であった。

対象者全員に、膝痛・腰痛の有無、JKOM(膝痛評価)、JLEQ(腰痛評価)、転倒不安尺度を測定した。膝痛率、腰痛率は、要介護度別に疼痛を有する高齢者の割合を示した。データの標記は、平均値±標準偏差で表した。対象者には、事前に本研究の目的や期待される成果、個人情報の管理などを十分に説明され、対象者の同意の上にデータ採取が行われた。

1) JKOM (Japan Knee Osteoarthritis Measure)

日本版変形性膝関節症患者機能評価表(以下、JKOM)の指標は、西オントリオ大学・McMaster大学変形性関節症インデックス(western Ontario and McMaster Universities Osteoarthritis Index: WOMAC)をベースに作成された。JKOMの信頼性、妥当性については、変形性膝関節症患者を対象に赤居らが検証している⁶⁾。JKOMは、25問のアンケート式の質問表で4項目の下位尺度(①膝の痛みとこわばり②日常生活の状態③ふだんの生活など④健康状態)で構成されている。痛みがない場合が0点、もっとも激しい痛みの場合が100点、となる。

2) JLEQ (Japan Low Back Pain

Evaluation Questionnaire)

疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度(以下、JLEQ)の指標は変形性膝関節症患者および慢性腰痛症患者を対象に開発され妥当性が検証されたものである⁷⁾。JLEQは、30問のアンケート式の質問表で、痛みがない場合が0点、もっとも激しい痛みの場合が120点、となる。

3) 転倒不安感尺度

転倒不安感尺度は、10問のアンケート式の質問表で、質問の動作が不可能な場合であっても、もし動作するとしたら、どう感じるのかを答えてもらう⁸⁾。全く不安が無い場合が10点、もっとも不安が強い場合が40点となる。

表1 JKOM得点 (N=93)

要介護度	N	JKOM得点	膝痛者数(率)
要支援1	31	35.6±21.6	16(51.6%)
要支援2	28	38.2±23.2	20(71.4%)
要介護1	14	24.3±19.4	9(64.3%)
要介護2	11	37.7±24.8	10(91.0%)
要介護3	7	31.9±14.6	5(71.4%)

表2 JLEQ得点 (N=74)

要介護度	N	JLEQ得点	腰痛者数(率)
要支援1	31	35.3±23.8	17(54.8%)
要支援2	14	49.0±30.0	11(78.5%)
要介護1	12	20.4±24.6	9(75.0%)
要介護2	11	39.0±33.0	10(90.1%)
要介護3	6	28.3±28.6	3(50.0%)

表3 転倒不安尺度 (N=102)

要介護度	N	転倒不安尺度得点
要支援1	36	21.8±6.4
要支援2	31	23.0±7.6
要介護1	14	16.6±6.8
要介護2	12	21.4±7.6
要介護3	7	22.9±6.0

3. 結果

膝痛評価(JKOM)・腰痛評価(JLEQ)、膝痛・腰痛率および転倒不安尺度の結果を表1~3に示す。得点が高いほど悪化の傾向を表す。要介護度別では、全ての項目の得点において「要支援2」(表中の網掛部分)が最も高かった。転倒不安尺度においても同様の結果となった。

1) 膝痛評価(表1)

「要支援1」のJKOM得点は35.6±21.6点、膝痛率51.6%であった。「要支援2」のJKOM得点は、38.2±23.2点、膝痛率71.4%で、最も高かった。「要介護1」のJKOM得点は、24.3±19.4点、膝痛率64.3%であった。「要介護2」のJKOM